



新政会だより

Vol.9

平成22年1月11日
発行

新政会

基本理念

友愛・公平・公正・効率を旨とする

スタンス

保守・中道路線

米田市政を是々非々で支える



政務調査（飯山市）にて

右から

所属委員会

- 齊藤 伸一 総務文教常任委員会
- 野本 信行 建設産業常任委員会
- 伊藤 文博 市民厚生常任委員会

ご挨拶

市民の皆様には、ご家族でよい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃より、新政会の議会活動に対し、ご理解と暖かいご支援を頂いていますことに、心より感謝申し上げます。

新政会は、政策集団を自負し、住みやすい安全安心の糸魚川市づくりを求めて、勉強会・相互研鑽を重ねながら、議会ごとに3名全員が一般質問に立つなど、議会活動を真剣に行っています。

平成22年度の実施計画策定・予算編成を前に、数回にわたる会派会議、勉強会、視察研修、市民の皆さんとの意見交換を行い「平成22年度予算編成に対する新政会要望」をとりまとめ、米田市長に対し11月25日に重点施策を提示しております。



平成二十二年 予算編成に対する「新政会」要望

（抜粋・要約）

【市政運営の基本姿勢】

糸魚川市は合併前後の諸課題に積極的に取り組み、一般廃棄物最終処分場対策、新幹線駅舎・自由通路対応など懸案事項も多くある一方、日本最初の「世界ジオパーク」に認定され、観光事業の活性化による交流人口の拡大、活力ある地域づくりとそれによる若者の定着促進に大きな期待が寄せられております。

当市の置かれている厳しい状況を認識し、「総合計画」を基本に国・県との連携を密にして、市長を先頭に管理職の強力なリーダーシップと職員の意識改革による迅速且つ適正な市政運営を展開し、糸魚川市の永続的発展と市民の安心安全を追求するよう、平成22年度予算編成にあたり新政会は要望いたします。

【重点施策】

1. 予算編成の基本的考え方

- (1) 市税、地方交付税、補助金等の増額が望めないことから、「選択と集中」を基本の行財政運営人件費等庁内の経費削減の強化を。
- (2) 厳しい雇用状況と産業界の先行き見通し、生活必需品の高騰と高齢者世帯増加の現実から、ガス、下水道料金などの市民負担増については慎重に検討すると共に、市民への十分な情報開示と事前説明を。

2. 市長の重点方針に対する新政会としての具体的要望事項

- (1) 地域福祉・医療対策と健康づくりの推進
 - 糸魚川総合病院を中心とする診療科目医師の確保
 - 救急医療体制の維持
 - 「地域医療計画」の早期策定による長期展望に立った地域医療対策の推進
 - 高齢要介護者世帯への相談窓口の強化、受け入れ施設への支援を強化
 - 健康づくりセンターの早期完成と基幹施設としてのセンター機能の有効活用システムの構築。
- (2) 安心・安全のまちづくりの推進
 - 各種災害に強いまちづくり
 - 一般、産業廃棄物処理の総合的な計画策定、排出量削減、リサイクル率向上、最終処分場の確保、環境の保全を

- 地域の発展につながる産業の育成と振興
- 市内既存企業の支援を強化
- 「企業支援室」の人材の強化
- 若者就労定住対策、財政力向上による地域力アップ
- 農林水産業の大変厳しい状況に対して、幅広い視点の持続可能な集落維持対策
- 世界ジオパーク認定に伴う観光の振興と誘客の促進

○総合計画中期計画に「ジオパーク活用による交流人口の拡大」を

○観光協会観光案内所とサテライトオフィスを発展的に統合し、必要な人員を配置して案内拠点を充実

○フォッサマグナミュージアムをルート拠点として24ジオサイトをルート設定

○交通、食、宿泊など分かりやすい「ジオパーク観光振興計画」(仮称)を策定

○市内の観光施策の充実強化を図るため、観光協会の統一を支援し、三地域が歩調を合わせた事業推進

○以上に必要な予算配分を行い、市が各団体・市民活動のコーディネーターとしての機能を十分に発揮して交流人口の増加に取り組んでいただきたい。

(5) 主要交通ネットワークの整備促進

○都市機能の向上と産業基盤整備のため「東バイパス、北陸新幹線、姫川港、松糸道路」等の整備促進

○新幹線、在来線駅舎問題に関しては、議会や商工団体との連携を密にし、将来の地域活性化につながる選択を

○市民生活向上と観光誘客増、災害対応力向上につながる「中央大通り線、国道8号親不知防災、国道148号」等の事業促進を図り、安全性と利便性の高い交通ネットワークの完成

(6) 簡素で効率的な組織と人事管理

○関係部・課の連携による迅速な行政執行・市民サービスを念頭に置いた組織改正を行い、責任と権限、危機管理体制を明確にした人事管理を

○行政コストの削減を図るため、かねてから新議会が提言している「事業仕分け」を積極的に導入し、庁内意識の改革を図る

(7) 時代を担う子育て支援と教育の充実

○「日本一の子どもを育てる」とは「子育てに日本一の熱意で取り組むこと」であります。「こ

- ども課」の創設により、日本一の子育て・教育環境の整備を
- 保険料の軽減、学童保育(放課後児童クラブ)の更なる充実による家庭の負担軽減を図り、子育て支援の強化をお願いしたい
- 豊かな心と学力向上を図るため、教職員の人材確保と資質向上
- 地域に根ざした食育教育の充実
- インフルエンザの万全な対策、措置

以上

【新議会勉強会】

◆新議会 政務調査

■平成21年11月9日(月)

☆飯山市 子ども課(子育て支援)

糸魚川市は来年4月の組織改編で「こども課」の創設を計画しています。

「0歳から18歳まで」

「日本一の子どもを育てる」

を合い言葉に、子育て支援、児童福祉、教育を同じ組織で一貫して行うための改編です。

飯山市では、教育委員会に「子ども課」を置き、糸魚川市がこれから取り組もうとしていることを既に実施しています。具体的に色々聞くことが出来ました。



飯山線は千曲川沿いを走ります。車窓からの風景は素晴らしいものでした。

■平成21年11月10日(火)

☆三鷹市 ゴミの減量化対策(有料化)

三鷹市では昭和41年には既に個別収集に取り組み、平成16年には分別を厳しくしていました。そして今年10月1日よりゴミの有料化に踏み切り、順調に経過しています。



糸魚川市の一般廃棄物の総合的な対策が求められているこの時期に、良い視察が出来ました。三鷹市のゴミ焼却場から出る焼却灰は全てエコセメントとして再資源化され、埋立ゼロを達成しています。有料化の問題も含めて大変勉強になった視察でした。

糸魚川市のゴミ行政の再スタートはまだまだこれから検討しなければならぬ問題が沢山ありますね。

◆ジオパーク勉強会

■平成21年11月20日(金)

新議会主催で清生クラブにも声がけをして勉強会を開催しました。

世界ジオパーク認定の糸魚川ジオパークの中で、弁天岩ジオサイトと筒石・浜徳合ジオサイト、青海橋立ヒスイ峡ジオサイトを廻りました。

弁天岩・白山神社では、糸魚川ジオパーク推進市民の会理事で、ボランティアアガイドをお務めの小竹一朗さんに案内をして貰いました。かねてよりお願いしてあったと

ころ、同日に東京いといがわ会、大飯といがわ会の皆さんと日程が重なり、一緒に案内して頂くことにしました。

昼食後、青海地域に移動し橋立ヒスイ峡へ。市の竹之内学芸員に案内をお願いして橋立集落側の駐車帯で待ち合わせて、ヒスイ峡まで降りました。

ヒスイの出来る過程、小滝ヒスイ峡と橋立ヒスイ峡の関連など、ためになるお話を沢山聞かせて頂きました。

同行した議員も、橋立のヒスイ原石の見事さに感心していました。

写真のバックに映っている白い石がヒスイの原石ですが、通常の水量の時には上に乗って直に触れることができません。



編集後記

8月に世界ジオパークへの登録が認定され、早くも4ヶ月が過ぎました。ジオパークへは一日も早い対応が求められます。

糸魚川駅前のサテライトオフィスには開設以来多くの人が詰めかけています。世界ジオパーク成功の要は観光ガイドだそうです。糸魚川にも個性的な観光ガイドさんが揃って観光客に楽しんでもらえるようになったらいいですね。

私たち新議会は、夢を現実にするため尽力します。 編集子